

## 年間計画における学校行事の位置づけの検討：小中 一貫及び連携校における学校行事に着目して

兼安, 章子  
九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門：助教

<https://doi.org/10.15017/1932051>

---

出版情報：教育経営学研究紀要. 20, pp.89-95, 2018-03-29. The Laboratory of Educational Administration, Educational Law Graduate School of Kyushu University

バージョン：

権利関係：

# 年間計画における学校行事の位置づけの検討 —小中一貫及び連携校における学校行事に着目して—

兼安 章子  
(九州大学／助教)

- I はじめに
- II 調査概要及び学校行事の実態
- III 小中一貫及び連携校の学校行事の特徴
- IV おわりに

## I はじめに

学校行事は、学級活動や児童会活動、クラブ活動と同様に特別活動に位置づけられており、その時間数は、学校の裁量で決定することができる。これまで、週5日制の実施、学習指導要領改訂による教科の授業時数増加により、学校行事は減少してきた。加えて、現行の学習指導要領においては「〔学校行事〕については、学校や地域及び児童の実態に応じて、種類ごとに、行事及びその内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること」とされており、その精選が強く求められている。

また、次期学習指導要領でも、5・6年生においては教科として外国語の授業時数設定、3・4年生においては外国語活動の導入により、各学年35時間の授業時数増加が迫られている。このような状況から、これまでの学習指導要領改訂に対応と同様に、教科外の活動で学校行事やクラブ活動、委員会活動などの特別活動にシワ寄せが及ぶ可能性がある。

このような状況の中で、学校行事は総合的な学習の時間との連携及び、役割分担の必要性（戸田2008）が生じており、その独自性が問われている。歴史的な関心から儀式的行事の在り方について論じた水口（2013）は、儀式的行事の持つ教育的意味について捉えなおすことを試みている。また、学校行事が学校変革の契機となった経営戦略の事例（狩野2005）もあり、子どもや教師にとって影響力の大きなものであるといえよう。その意味で、学校側の計画は自主的である一方、その教育計画が外圧的に規定されていく要因として、学校の置かれる様々な状況が想定される。その一つとして、

本稿では小中一貫教育の実施、小中連携教育の推進について取り上げてみたい。

文部科学省が各市町村を対象として行った調査では、平成29年3月時点で、14%の市町村が小中一貫教育、72%が小中連携教育を実施しており、小中一貫校も増加傾向<sup>(1)</sup>にある。小中一貫及び連携教育については、これまで、その教育内容や児童生徒を対象としたその効果が論じられてきたが、今後はとりわけ、異年齢集団による活動の検討が求められる。新学習指導要領解説特別活動編（平成29年6月）においては、学校行事に関して「異年齢集団による交流を重視」することが示されており、学校にはそれらをより一層推進するための計画・実施が求められていることに鑑み、異年齢集団での活動が想定される学校行事の検討は重要な課題であると考えられる。

以上の問題関心から、学校が学校行事として設定する活動について検討を行う。児童にとっては同一の活動であっても、学校行事として実施されているのか、もしくは教科や総合的な学習の時間の授業として実施されているのかは、その活動に対する学校側の姿勢を見極める指標となり得るのではないかと考えられる。

そこで本研究は、学校行事として行われている行事の現状を整理すると同時に、学校がどのような行事を年間計画に位置付けているかの検討を通して、学校が捉える学校行事の意味について検討することを目的とする。さらに、小中一貫及び連携校という特色のある学校における学校行事について事例検討を加えることで、それらの学校における学校行事の位置づけの特徴についても明らかにする。

## II 調査概要及び学校行事の実態

### 1. 調査概要

X県の全市町村のうち、半数の自治体が設置する公立小学校を対象とする。対象とした自治体はその規模を考慮し、5市5町2村とした。対象とする自治体に設置されている小学校から入手することができた学校経営案のうち、授業時数や学校行事、それらの年間計画について詳細に記述してあるもののみ(49校)を対象とした。対象校の平成28年度学校経営案から、学校行事の時間数やその内容について分析した。また、補足するための情報を適宜、各学校やX県教育委員会のホームページから得た。

小中一貫校が4校、小中連携校が11校<sup>(2)</sup>であった。学校規模としては、3～11学級(小規模校)が34校、12～18学級(中規模校)が10校、19学級以上(大規模校)が5校である。学校の設置者は、市立が32校、町立が14校、村立が3校であった。

本稿では、6年生の授業時数における学校行事を分析対象とした。6年生は授業の標準時数が最も多い学年であることに加え、修了式前に卒業式が設定されることが一般的である。さらに修学旅行などの宿泊行事を実施する学校も多く、授業時間数の確保が難しい状況であることが予想され、現状整理が必要であると考えた。また、小中一貫及び連携校においては小中学校の接続期にあたり、その特徴が表出される可能性がある。

表1に小中一貫校及び連携校の6年生の学校行事時間数についてその平均値を示した。49校の分析に留まるため、小中一貫校や連携校の数はより少数であるが、各行事の時間数についてはばらつきがないことを確認して平均値を算出した。

### 2. 学校行事の概要

学校行事の種類と内容について整理する。学校行事に使用されている時間数は、平均して59.4時間であった(表1参照)。また、特別活動の一部ではない学校の行事として、各種の検診や検査、プール掃除、中学校の入学説明会や体験入学、各種学校行事の準備などの行事があり、平均30.3時間を用いていた。

表1 小中一貫及び連携校の学校行事時間数

	小中一貫校 (4校)	小中連携校 (11校)	一般校 (34校)	平均時間数
儀式的行事	11.3	12.7	11.7	11.9
文化的行事	8.3	4.9	5.1	5.32
健康安全・体育的行事	12.0	20.5	18.8	18.7
遠足・集団宿泊的行事	20.3	18.8	20.5	20.1
勤労生産・奉仕的行事	5.0	4.4	2.3	2.86
合計	58.3	61.4	58.4	59.4

単位:時間

#### (1) 儀式的行事

儀式的行事としては、始業式、終業式(第6学年を対象としたため、基本的に修了式は設定されていない<sup>(3)</sup>)、入学式、卒業式(準備や練習などを含む)をはじめ、立志式、創立記念式、夏休み初めの式などが設定されていた。2学期制の学校は15校、3学期制の学校は32校、学期制が不明の学校は2校であった。2学期制の学校は8～16時間、3学期制の学校は4～22時間であり、学期制により儀式的行事の平均時間の差は見受けられなかった。また、2学期制ではあるが、「夏休み前終わりの会」や「新年初めの式」を集会等としての設定ではなく、儀式的行事として長期休業前後に設定している学校が少なからず確認されたことから、それらの行事を学校側が重要視している事実が浮かび上がった。また、儀式的行事のうち多くの学校が卒業式に多くの時間を割いている。練習を含め10時間以上の時間を確保している学校もあり、学校側が重要視している行事であるといえるだろう。

#### (2) 文化的行事

文化的行事としてあげられたものは、鑑賞教室、文化祭、〇〇(地域の名前などが入る)祭、学習発表会、音楽祭などがあった。これらの行事に練

習時間が行事の時間として設定される場合は少なく、練習時間が必要ない鑑賞や、総合的な学習の時間や教科の授業で練習を行っているケースが見受けられた。1年に2～3つ程度の行事が、1～13時間で設定されており、地域に開かれた形で行っているものも連携を行っている学校もあった。しかしながら、文化的行事に関して共通点は見出されなかったため、固定化されたものではなく、学校独自に設定されるケースが多いと考えられる。

### (3) 健康安全・体育的行事

健康安全・体育的行事は11～29時間の中で行われ、すべての学校で避難訓練と運動会（大運動会、合同運動会等を含む）が設定されていた。

避難訓練は年間に1～5時間設定されているが、その内容は、火災、不審者侵入、地震、風水害など多岐にわたり、学校の立地によっても想定されるリスクが選択されていた。交通（安全）教室については35校で実施されており、実施率の高い学校行事である。1学期の早い段階で設定される学校が多く、危機管理上必要と考えられているだろう。

運動会は、名称はさまざまであったがすべての学校で設定されており、学校行事としては欠かすことのできない行事として設定されてきたことがわかる。その練習時間やその位置づけについては多様で、予行練習や全体練習といった全学年もしくは複数学年合同で実施される練習については、学校行事として設定されているものもあったが、それ以外については、保健体育科の授業時間として設定されていると推察される。その他、陸上大会や持久走大会、駅伝大会、大なわ大会、JRC（青少年赤十字）奉仕活動などが設定されていた。陸上大会や持久走大会などは、市町村単位で設定されている学校も多く、近隣校との関係で実施せざるを得ない状況である可能性もあるだろう。

### (4) 遠足・集団宿泊的行事

遠足・集団宿泊的行事として、すべての学校で修学旅行、宿泊学習、集団宿泊のいずれかが実施されており、多くの学校で1泊2日から2泊3日程度で行われていた。時間数は2～18時間と幅があり、社会科や総合的な学習の時間の一部として実施されている学校も見受けられた。調査対象としたすべての学校で、1時間以上は学校行事として設定されていることから、学校行事として設定

することが重要であると考えていることが垣間見える。

また、次に多く設定されていた行事として遠足がある。その名称は春の遠足、歓迎遠足、秋の遠足、お別れ遠足などであり、次期や名称はさまざまであるが、ほぼすべての学校で実施されている。その1回の時間数は3～5時間であり、他教科や総合的な学習の時間等を用いている例は少ない。また、6年生は宿泊行事が行われるため、その時期に他学年が遠足を行う学校も少なからず存在しており、遠足は必ずしも全学年合同で行うのではなく、限られた複数の学年で実施する場合も確認された。

その他、遠足・集団宿泊的行事としては、野外体験学習やウォーキングが実施されている学校も存在していた。

### (5) 勤労生産・奉仕的行事

これまでに示した(1)～(4)の行事と違い、6年生では設定されていない学校があることが大きな特徴である。時間数の設定は0～9時間であった。なかでも最も多く設定されていた行事は、大掃除であり、クリーン作戦、美化活動という名称でも確認された。また、これらの行事は、校内に留まらず校区内を広く清掃する役割を担っている場合もあり、神社清掃という行事で明記されているものもあった。

農業体験を伴う行事も多く設定されており、田植えや稲刈り、芋ほり、茶摘み、餅つき、植樹など多岐にわたる。さらには、福祉施設の訪問や高齢者交流などの、人との交流を行う行事も少数であるが設定されており、地域と連携して行う行事として意味づけられていることも考えられる。

## Ⅲ 小中一貫及び連携校の学校行事の特徴

### 1. 小中一貫及び連携校の事例の選定

小中一貫校の文化的行事、小中連携校の健康安全・体育的行事、小中一貫・連携校の勤労生産・奉仕的行事は、そうでない一般の小学校平均に比べて高く、詳細に分析する必要があると考える(表1参照)。

以降では、前述の特徴について、学校経営案上に詳細に掲載のあった小中一貫校と小中連携校各

1校に焦点を当て、その事例を分析することとする。

## 2. 施設一体型の小中一貫校の事例

A市立B校は、2小2中の4校が合併してできた施設一体型の小中一貫校である。カリキュラムは9年間で構成されている。また、中学生は7～9年生と位置づけられ、学校行事についても、多くの行事が1年生から9年生までの小中合同で設定されている。

表2 A市立B校6年生の学校行事

	行事名	時間数 (時間)
儀式的行事	<u>始業式③</u> <u>入学式②</u> <u>終業式②</u> <u>立志式②</u> <u>卒業式②</u> <u>6年生卒業式①</u>	12
文化的行事	<u>文化祭⑥</u> <u>鑑賞教室②</u> <u>カルタ大会①</u>	9
健康安全・体育的行事	<u>避難訓練③</u> <u>交通教室①</u> <u>運動会⑩</u>	14
遠足・集団宿泊的行事	<u>ウォーキング④</u> <u>春の遠足⑤</u> <u>秋の遠足⑥</u> <u>修学旅行⑫</u>	27
勤労生産・奉仕的行事	<u>大掃除②</u>	2
合計		64

※下線は小中合同の行事、○の中の数字は各行事の時間数を示す

6年生の学校行事のほとんどが7～9年生（中学1～3年生）にも設定されており、合同の行事は合計46時間であった。学校行事の授業時間数は、7年生で48時間、8年生で63時間、9年生で43時間であり、修学旅行が設定されている8年生の時間数が多くなっているものの、6年生とほぼ同数であった。8年生の行う立志式は5年生以上の児童生徒を対象に行われるなど、接続期である5・6年生は、参加する行事が多く見受けら

れる。卒業式は9年生対象として行われ、小学校段階の卒業式は6年卒業式という名称で行われていることから一貫した教育と考えていることが伺える。

さらに、運動会、文化祭などでも一貫した教育を行っている。運動会は9月上旬、文化祭は10月上旬に行われており、同時に準備を進められている。学校経営案には主な学校行事及び指導事項が記載されている。

運動会の準備は、1学期から行われ、7月に団結式を行い、長期休業を挟んで20時間程度（学校行事として設定されていない時数も含む）の練習を重ねて9月上旬に実施される。9月中旬より文化祭練習が始まり、13日間の練習を経て、文化祭が実施される。練習時間として行事予定表に明記されている時間は、4時間であるがその他の取組も行われているものと推察される。運動会に関する説明が学校経営案上4行であるのに対し、文化祭に関する説明は31行掲載しており、小中一貫校として行う目玉行事として立ち上げられたことがわかる。以下に、文化祭についての学校行事及び指導事項を抜粋する。

### ①合同開催についての目的

B校という小中一貫校文化を創り上げるためには、文化的行事を一体的に実施することが極めて重要であるという確証のもとに合同開催を目指す。団結力を培った運動会に続く合同行事で一体的な文化創造を達成し、各学年の飛躍を期待するものである。

（中略）

### ③期日：10月△日（日）

○Y年度の小中別開催による鑑賞交流をさらに発展させ、同時開催へとたどり着いた。上学年の取組と演技、下学年の一心不乱さなど相互に学ぶことは多い。

○同日開催により、保護者・地域への発表という側面も付加され、日曜日開催で学校と地域が一体となった教育の想像へ近づける。

### ④内容

（中略）

○学習の成果の発表（小学部）や、創造性・共同を学年経営の中核に位置づける発表（中学

部) のよさを創造的に取り入れる工夫を行う。その結果、年を追うごとに蓄積された発表スタイルが、新しい文化の発展と伝搬に繋がるという意識で成功を収める努力を行う。

- ・中期5・6年生においてはスムーズな接続を考慮した工夫を行う。

(以下略)

児童生徒が創造する新たな文化を形成するものとして期待され、小中一貫校としてスタートしたY年から継続してそのあり方が模索されてきたことが理解できる。また、他の全学年合同で行われる行事に比べて、細かな点まで記載されていることから、それらを記載することで、学校内での目的の共有化や行事発祥の経緯などを引き継ぐ役割を示しているものと考えられる。

さらに、B校では、保健安全・体育的行事である交通教室や避難訓練も全学年合同で行っており、一貫した指導を貫いている。加えて、学校行事として設定されている時間ではないが、5年生から定期考査を導入しており、学期末テストの期間が設定されている。小中一貫校の特色にあるように6年生は、中学部(中学校)に進学するための準備段階であり、接続期としての役割が期待され様々な行事が計画されている。今後も接続を意識した学校行事が増加する可能性も含んでいると考えられる。

### 3. 小中連携校の事例

C市立D小学校は、1小1中の2校が連携して教育を行っている小中連携校である。D小学校は各学年1学級の小規模校で、小中一貫教育推進モデル校の指定を受け、数年前より中学校と連携を行っている。また、同校はコミュニティ・スクールでもある。中学校と施設は分離しており、小学校から400メートルほど離れたところに中学校がある。

6年生の年間計画に予定されている行事は表3の通りである。小中合同運動会に加え、田植え、稲刈りの学校行事を小中連携で行っていた。

小中合同運動会は、全学年の児童生徒が参加する形となっており、合同での練習が12時間設定されている。小学校ないしは中学校のグラウンドで合同練習が行われている。特に地域の伝統的な

踊りを披露する会としても運動会がその役割を担っており、踊りの稽古については地域住民が指導者となり、小中合同練習が行われている。本番だけでなく準備段階から、PTAや地域住民も関わり、参加することが定例となっている。

このような地域総出の合同運動会に加え、勤労生産・奉仕的行事である田植え、稲刈り、餅つき大会も小中合同で行われている。この学習には、小学校4~6年生と中学生が参加している。特に5年生は総合的な学習の時間において「お米を育てよう」という単元を学習しており、密接なつながりがある。他学年では総合的な学習の時間とのつながりは見られないが小中連携の行事として実施されている。ここでも、地域住民がボランティアとして、田植えや稲刈りの指導を行っており、地域住民との距離が非常に近いことからこのような行事が実現していることが予想される。小中連携という枠組みを通して、地域を巻き込んだ学校行事を設定しているとも考えられる。さらに、文化的行事である〇〇祭や、勤労生産・奉仕的行事である〇〇園訪問など地域との連携の下に成り立っている行事はD小学校単独で行われており、地域との連携を通して、D小学校の学校行事が成り立っている。

また、連携しているF中学校においては、学校行事は1年生で33時間、2年生で47時間、3年生で34時間であり、小学校に比べて少ない時数であった。小中合同運動会では、当日の6時間のみが学校行事として計画され、その他の予行練習等は、学校行事としては計画されていなかったが10時間確保されていた。小学校では学校行事として計画されていないものを含めて14時間であり、学校行事以外の時数を含めると中学校側が準備に多くの時間を費やしていることが分かる。これは、運動会の準備や運営に中学生がより関わりを持っているものと推察される。

田植え・稲刈りについては、中学校では学校行事として取り扱われておらず、総合的な学習の時間として計画されていた。

以上のことから、小中連携校においては、連携して行う活動をどのような位置づけとするかは、それぞれの学校に任されており、連携している小中学校間でもその認識が異なる場合も存在していると考えられる。

表3 C市立D小学校6年生の学校行事

	行事名	時間数 (時間)
儀式的行事	始業式② 終業式① 入学式② 立志式① 卒業式⑦	13
文化的行事	鑑賞教室② ○○祭③	5
健康安全・ 体育的行事	交通安全教室① 避難訓練① 身体計測② <u>小中合同運動会⑩</u> 陸上大会⑤ 持久走大会②	21
遠足・集団 宿泊的行事	修学旅行⑫ 秋の遠足⑤ お別れ遠足⑤	22
勤労生産・ 奉仕的行事	クリーン作戦① ○○園訪問② <u>田植え②</u> <u>小中合同稲刈り②</u> <u>餅つき大会②</u>	9
	合計	70

※下線は小中合同の行事、○の中の数字は各行事の時間数を示す

#### IV おわりに

本研究は、小学校における学校行事を学校経営案から分析し、学校が捉える学校行事の意味を検討したものである。

2・3学期制による学校行事の時間数の差は見られなかったが、学校側の儀式的行事を重んじる姿勢が確認された。

また、小中一貫校及び連携校においては、6年生や高学年の児童全体を中学生と合同の行事に参加する割合が高くなっている傾向が見受けられた。修学旅行の時間の確保や卒業式の日程、練習などからも多くの時間が必要となる6年生にとって、学校行事を多く設定することには限界がある。6

年生の学校行事として何を残すのか、必要なカリキュラムは何かといった視点での一層の検討が求められるだろう。

そのような中で、小中一貫校においてはそのカリキュラムの独自性を追求するために学校行事を用いようとしている実態が確認された。新たな文化の創造や、伝統の継承等に学校行事が用いられていく実態から、学校行事は学校に存在する学校文化の構築に寄与するものとして捉えられていると考えられる。

また、小中連携校については、地域と連携した学校行事の計画を確認することができた。地域や中学校と連携したものとして設定されている実態から、地域を巻き込んで行われてきたものが学校行事として存在し続けている可能性があるのではないかと考える。そのような地域や他校種を巻き込んだ形でしか、学校行事は存続し得なくなっていくのかもしれない。本稿で取り扱う事例は小規模校であったことから、連携校に限らず小規模校においては、日常的に地域との密な連携が図られている可能性も否定できない。しかし、小中一貫教育は小規模自治体で取り組まれていること（西川 2017）からも、小中一貫及び連携校においては地域との連携が重要な役割として認識され、学校行事の中にもその認識が表出していると考えられる。

いずれも、個々の教育活動を学校行事として位置づけることにより、文化の創造や地域との連携といった学校の重要視する価値が浮かび上がった。

今回はあくまでもX県の事例検討であるが、地域性も考慮し、他の都道府県についても検討を加える必要がある。また、学校経営案から分析を行っているため、実際の年間計画の実施段階における学校行事の実態についての検討や、複数年度にわたる検討から、学校行事の持つ意味をより詳細に描き出すことも今後の課題としたい。

#### 【注】

- (1) 小中連携校は、平成 28 年度は 160 校であったが平成 29 年度には 246 校に増加している（ただし義務教育学校を除く）。
- (2) 学校経営案に明記してある場合に小中連携校

として取り扱った。

- (3) ただし、小中一貫校において、卒業式は中学校3年生を対象とするものであり、修了式に参加している学校も確認された。

#### 【参考・引用文献】

- ・ A市立B校ホームページ
- ・ C市立D小学校ホームページ
- ・ C市立F中学校ホームページ
- ・ X県教育委員会ホームページ
- ・ 狩野浩二「島小の教育実践：学校行事」『鹿児島大学教育学部研究紀要教育科学編』第55号、2004年、131-158頁。
- ・ 狩野浩二「島小における学校行事の展開」『鹿児島大学教育学部研究紀要教育科学』第56号、2005年、137-163頁。
- ・ 戸田 浩暢「改訂学習指導要領「特別活動」における「学校行事」の特色」『広島女学院大学論集』58号、2008年、83-96頁。
- ・ 西川信廣「教育課程編成の学校裁量権拡大の意義と課題－義務教育学校、小中一貫型小・中学校の制度化の意味－」『京都産業大学教職研究紀要』第12号、2017年、1～21頁。
- ・ 水口洋「学校における儀式的行事の存在価値」『教育研究』第55号、国際基督教大学、2013年、43-53頁。
- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説編特別活動編』東洋館出版社、2008年。
- ・ 文部科学省「小中一貫教育の導入状況調査について（平成28年度）」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/ikkann/\\_icsFiles/afieldfile/2017/09/08/1395183\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkann/_icsFiles/afieldfile/2017/09/08/1395183_01.pdf)（最終アクセス2018年1月23日）
- ・ 学習指導要領解説特別活動編、2017年9月、  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/12/19/1387017\\_15.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/12/19/1387017_15.pdf)（最終アクセス2018年1月31日）